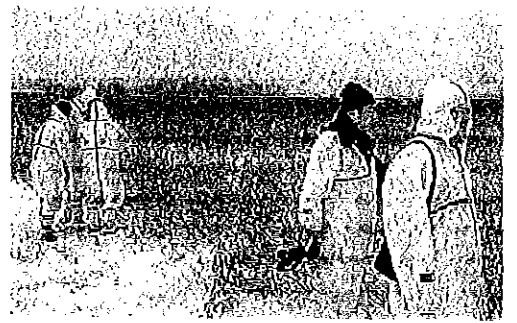


極東ビジネス 新局面

④

資源ビジネスに続け



北海道銀行などの視察団は10月、アムール州のウラジーミル農場を訪れた

頭取が同州知事と覚書を交わした農業協力は、資源エネルギーに続く両国の新たな経済交流強化の目玉の一つ。北海道の約4倍の面積を持つ同州は、肥沃な土地と長い日照時間を生かした、ほぼ無肥料の農業が主力産業だ。近年は人口が減り、耕作放棄地の増加が問題となっていた。

収量を上げるため、同州では農機具や肥料の需要が増えている。今月中に最終的な収量を確

頭取が同州知事と覚書を交わした農業協力は、資源エネルギーに続く両国の新たな経済交流強化の目玉の一つ。北海道の約4倍の面積を持つ同州は、肥沃な土地と長い日照時間を生かした、ほぼ無肥料の農業が主力産業だ。近年は人口が減り、耕作放棄地の増加が問題となっていた。

収量を上げるため、同州では農機具や肥料の需要が増えている。今月中に最終的な収量を確

料を大量栽培し、道への出荷を目指す。試験する一方、「道内にも遊休地が余っており、国外に出るメリットがあるのか」との指摘もある。だが、道銀の試みは道内の農業関連企業にもロシア進出の可能性を広げた。

農機メーカーのIHI（千歳市）はアムール州のディーラーに近く、肥料散布機をサンアール出荷する。同州への農業輸出は道内初。「アムール」の農機は未発達。国内農家の高齢化が進み、海外に商機を見いだしたい」と小原信孝アグリビジネス部長は期待する。

越浦パイプ（札幌市）は11月、札幌市内で開かれた商談会で、サハリン（旭川市）が運営ノウハウを提供する。

11月25日、旭川を訪れたユジンのアンドレイ・ロフキン市長は15年に建設を始める考えを表明した。ユジンの卸売市場が活発化すれば、道産農産物の低コスト輸送への道が開ける可能性もある。

農法輸出、道銀が先導

銀の笹原副頭取は収穫した大豆を手に取り、笑顔を見せた。周囲は地味な色調で続く広大な農地。「日本では考えられない広さだ。ここで栽培すればコストダウンできる」と手心えを強めた。

農業協力で覚書 4月、安倍晋三首相の訪口に同行した堀八義博

技術に優位性があることを裁培に一定のメドがつけられる北海道農法を導入。ロシアでは5〜10秒の深さで耕す農地を約20秒です。

ただ「ロシアには大きな部分が多い」など

設立し支援する考えだ。「あか毛和牛を出荷し、現地で飼育する構想もある」（神内ファーム21）農産物など生鮮品を集約・流通する卸売市場のものを「輸出」する計画も浮上している。同市内では公設卸売市場「農業パーク」の建設に協力。

生鮮卸大手のキョクイチ（旭川市）が運営ノウハウを提供する。

11月25日、旭川を訪れたユジンのアンドレイ・ロフキン市長は15年に建設を始める考えを表明した。ユジンの卸売市場が活発化すれば、道産農産物の低コスト輸送への道が開ける可能性もある。

北海道

北海道銀行 札幌支店
 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号
 電話 011-221-1111
 011-221-1112
 011-221-1113
 011-221-1114
 011-221-1115
 011-221-1116
 011-221-1117
 011-221-1118
 011-221-1119
 011-221-1120

北海道銀行 旭川支店
 旭川市南一条西五丁目1番1号
 電話 0143-221-1111
 0143-221-1112
 0143-221-1113
 0143-221-1114
 0143-221-1115
 0143-221-1116
 0143-221-1117
 0143-221-1118
 0143-221-1119
 0143-221-1120